

ジョン石橋ビルダーズ

施工品質の「見える化」を徹底 赤外線カメラや膜厚計で

リフォーム事業を手掛けるジョン石橋ビルダーズ(東京都世田谷区)は施工品質の見える化を徹底し、リフォームの効果やメリットを分かりやすく提案している。その結果、紹介や口コミが広がり、ほとんど集客コストをかけたいないにもかかわらず、元請けで年間5000万円ほど売り上げる。同社は施工品質を伝えるために赤外線カメラを使う。遮熱塗料を塗る前の屋根を赤外線カメラで撮影。塗装後に再び赤外線カメラで撮影すること



▲赤外線カメラ「FLIR」



▲遮熱塗料を塗布後に赤外線カメラで撮影、温度がどれだけ下がったのかを画像で示している

で塗装前との変化が顧客に分かるようにしている。同社が使用している赤外線カメラは「FLIR」。価格は約10万円だ。屋根に防水塗料を塗る際はデジタル膜厚計も使用する。塗膜が品質に必要

要な厚さ3ミリかを確認するためだ。顧客にも膜の厚さが均一であることを数値で伝える。



石橋直治社長

また、同社は塗料缶の出荷証明書を顧客に見せ、施工現場に必要な塗料分を購入、使用したことを伝える。出荷を明確にする

理由には、顧客に安心感を。品質の見える化徹底の理由には、顧客に安心感を

ヤマダ電機コラボのマイクロバブルバス

与えるため。「色々な精密機器を使わないと信用度が低い。根拠のある品質じゃないと、信頼を勝ち得ないです」と石橋直治社長は話す。石橋社長は日建学院新宿校で二級建築施工管理技士の講師

をしながら、社長自身が生徒に対して、施工の品質を管理する方法を教え



▲バスはヤマダとコラボ



▲キティちゃんとはシャワーヘッドでコラボ

日本発のファインバブル技術を用いた製品を展開するサイエンス(大阪府大阪市)は、バス、シャワーヘッドのコラボ新商品の発表を行った。ヤマダ電機(群馬県高崎市)が展開する「ヤマダセレクトシリーズ」とコラボしたマイクロバブルトルネード搭載のファインバブルバスと、サンリオの人気キャラクターとコラボしたシャワーヘッド「ミラブルplus」ハローキティ

ティバージョン」。どちらも超微細な気泡が、汚れや毛穴の奥の老廃物などを肌のすみずみまで洗浄してくれる。ヤマダセレクトのファインバブルバスは、従来は後付けタイプのマイクロバブルバスをビルトイン。課題であった震動や騒音、防水に対する対策や施工時間の短縮の為に、工場出荷時に設置のためのプレ加工を施すなど、従来タイプ以上に高品質な商品を提供できる。

TOTO

「ザ・クラッソ」が美しく進化 マンションリフォームにも最適

TOTO(福岡県北九州市)のシステムキッチン「THE CRASSO(ザ・クラッソ)」が4年ぶりにフルモデルチェンジし、9月1日に発売

される。

開発テーマは「美しい」「使いやすい」「きれいなデザイン」を

役員社長執行役員の白川敬氏。「高い品質と性能を備えながら空間全体を

隣接するLDK空間の増大を促す。ポイント

「使いやすい」の進化

にカットと磨きを加え、エッジから光を取り込む。キッチン洗面開発第二部の坂田満洋部長は「クリスタルの魅力である透明感を際立たせる仕様にしました」と語る。

ほかにもカウンターと扉材の隙間を極限までなくすなど、ノイズレスデザインを進化させた。

「ゼロフィルターフードeco」を搭載した。

また「配管まわしキャビネット」で床上に最適

ように設計。「きれい」の進化では、シンク・網かご・排水口まで自然に水が流れるように傾斜をつけた「スクエアすべり台シンク」や、10年間ファインのお手入れが不要な

「配管スペースを備える。床下で配管を変更するスペースが取れないマンションでもI型から対面キッチンにリフォーム可能だ。「在宅時間が長くなり、快適に暮らしたい人が増えている。長期的視点で見るとリモデル需要は高まると思えます」(白川副社長)

を！